

村半利活用検討会（令和7年度第2回）結果報告

日時 令和7年10月6日（月） 16時～17時10分

場所 村半 主屋

出席者 検討会メンバー7名、事務局（総合政策部総合政策課）4名

内容

1 協議事項

（1）利用状況等について

- ・令和7年7月～9月の利用状況や占用利用実績等について説明
- ・今後の占用受付について

＜意見交換、質疑＞ メ：構成メンバー、事：事務局

（1）協議事項に対する意見等

メ：青少年の活動できる施設がないとあったが、そういう意味では村半は先進的な取り組みをしていると思う。こどもたちが集まって何かをやるということがだんだん苦手になってきている時代なので、こういう施設は大事な場所だと思う。文化会館の2階と3階には広いスペースがあって、机といすがあるので学生が勉強などをしているが、暗いため申し訳ないなと思いLEDの卓上ライトを設置した。いろんな子が汽車や塾の時間の合間などに活用しているようだが、こどもたちの居場所を作ることは大事なことだと思う。村半を模範にさせてもらっている。

事：西小学校については、昨年と今年に依頼を受けて出前講座を行った。出前講座の内容は総合計画やまちづくりといった話だったが、将来のユーザーになるだろうと村半を紹介したところ関心を持ってもらい、村半を見学する機会を別に授業で組んでいただき来もらった。

事：村半見学の際には大政も一緒に見学してもらった。家に近いなど利用しやすい方を選んで使つてもらっていると思う。

メ：西小学校のこどもは減るばかりで高齢者はとても多い。こども会も3～4つの町内が合同で行っている。昔は西小学校のこどもたちは高齢者に運動会の案内の手紙を出していたかと思うが、高齢者が多すぎて手がまわらないので現在はそういったことも辞めている。そういう意味では、地元のこどもがこういう施設を使って活動してくれるというのはうれしいことだ。西小学校は、子どもの数に対して学校の大きさから言っても取りつぶされてもおかしくない状況になりつつあると思う。地元の子が外に出て様々なところで活動していくことは大事だと思うので、是非今後も面倒見てあげてほしい。

事：小学生の利用としては、割としっかり者が多いので、先に宿題をやってからあれやろうこれやろうとみんなで計画を立てて利用している。後片付けについては追々ゆっくり教えていきたいと思うが、愛おしい存在であり、スタッフの喜びもある存在なので、これからも大事にしていきたい。

メ：娘が中学生でプラスバンド部に所属しているが、先日の村半のインスタに日枝中のプラスバンド部の友達が載っていた。日枝中からわざわざ村半に行くんだなと思ったのと、学校でも話題になつたようで広がっているのは良いことだと思う。

事：日枝中の利用は今一番多い。日枝中2年生の探求学習を村半でできないかといった相談を今現

在受けているところ。

メ:日本大学の調査については私も関わって村半を紹介させてもらい、調査だけではなく高校生やスタッフに説明をしてほしいと依頼をした。風土記の丘に中学生のインターンが来ていたときに、東京大学の方が所蔵している骨を見たいとまたまた来たことがあり、是非中学生に教えてあげてほしいとお願いしたところどちらも喜んでいた。中学生にとっても印象に残ったようだったので、今後も大学からの調査依頼があった際は、そういう接点ができるだけ設けられるように心がけたい。過去に高山で薰陶を受けた大学の先生がいて、授業の最初は必ず高山祭の映像から始めていると言っていた。大学生の印象に残るような対応をしてほしいと思う。

最後に、私も関わっている「下町発見！御朱印めぐり」について、参加者を小学生4年生から6年生に絞っているからか申し込み状況が低調なのが悩み。この企画は、地元の詳しい方が地元のものを説明をするといったとても良い企画なので、知り合いの方がいたら是非宣伝してほしい。

事:日本大学の先生が調査の際にスタッフに説明してくださったことについては、スタッフも「学びたい」という気持ちがあるため、勉強になりとてもありがたかった。

メ:高山の町屋の構造、特に吹き抜けの組み方にいろんな大学の先生が興味を持っていて全国的に注目されている。

メ:村半の良いなと思うところが、伝統的建造物群保存地区にあることで、歴史的なことや、高山祭、建築様式などを知ることができること、またそれ以外にも、リノベーションの視点でも興味深いものがある。若者の拠点としているというまちづくりに関する視点もあり、様々な切り口で入っていくことができる。大学連携センターとしても、様々な学部の学生たちに、自分の興味のある分野にプラスアルファして見てもらえるのではないかと思った。そういう視点でいろんな学部のみなさんに村半を見てもらって何かを感じてもらいたいながら次の調査地に赴くといった段取りをしていきたい。

事:学生の興味のある点、伝統建築、歴史、まちづくりなどを事前に教えていただければ、スタッフはその内容に重きをおいた説明をするなど、見学される方に合わせた案内をしたいと思うので、今後も教えてもらいながら対応していきたいと思う。

メ:この間、早稲田大学と國學院大學の学生をそれぞれ村半に案内したがびっくりしていた。都会にはいろんな施設があると思うが、こういった伝統的なエリアの中に若者が集まる場所があることがショックだったようで、また、リノベーションの仕方についても伝統を活かしている部分とシアターを備えているといった現代的な部分が共存していることに意表をつかれたようで、そういう複合性などに興味を持って見ていくようだった。これからも多くの学生のみなさんに紹介していきたいと思う。

(2)その他

事:前回の利活用検討会でご意見いただいた2点についてお話ししたい。1点目は、たばこの吸い殻のポイ捨てについて。先日の9月の議会でポイ捨てと路上喫煙に関する一般質問をいただき、その際に、条例で定める路上喫煙の禁止区域の見直しを検討することや、パトロールの実施と周知啓発もすすめるという答弁をした。ただし、この検討会では路上ではなく駐車場などの隠れたところでのポイ捨てについての意見だったと思うので、その点については、パトロールの回数を増やしたり、パトロールの場所の見直しなどにより強化して取り組んでいくことだった。

2点目は、防犯カメラについて。路上へのカメラの設置は議論が進んでいないところだが、村半においては現在カメラは施設内にのみ設置しており、扉を閉めた後の外側の状況が確認できないというところに問題意識を持っていた。そこで、扉を閉めたあとの状況も確認できるように、施設の外側を撮影するカメラの設置を検討している。できれば今年度中に設置したい。

事:補足します。ポイ捨てについて現状を共有させていただくと、パトロールは年に不定期で30回、

条例に定めるポイ捨ての禁止エリアを中心に巡回しており、職員もそこに加わっている。令和6年度まではそのような対応だったが、前回の利活用検討会の翌日に担当部署に報告したところ、地域の方や町並保存会さんからも同様の要望を受けており、エリアの拡大や巡回回数を臨時の回数を増やしていきたいということを聞いた。また新たに、たばこ組合や市商連に路上喫煙防止の推進委員として19名委嘱し、組合さんが独自で巡回されると聞いている。来年度以降、パトロールの頻度や場所の見直しをするなど強化をしていくことに加えて、外国人向けのチラシを新たに作成したり、景観に配慮したデザインのポスター、看板の設置など、地域と連携しながら啓発も強化をしていきたいとのことだった。地域柄防火防犯の意識が高いことも配慮して取り組んでいきたいとのことだったので、追加して報告する。

メ:対応いただきありがとうございます。最近、この地域で高齢者が一人でいる間に不用品か何かの買い取り業者が訪ねてくることがあった。車がレンタカーだったので不審に思って話しかけたところ、業者は前もって電話をかけてから来たと言っていたが、その家のお子さんから事前に話を聞いていたのでおかしいと思って帰ってもらうよう対応した。今後も地域で協力して守っていくことを決めたが、今後もいろんなことが起きると思うので、引き続きよろしくお願ひします。

事:10月9日の秋の高山祭について報告する。9日の宵祭では、歩行者の交通規制はなるべく掛けない方向で向かっていくと聞いている。ただし、安川通りで人が滞留し、屋台が出れない状況となりそうなときには規制を行うと聞いている。そのため、交通規制がかかって帰れない子が出てくる可能性もあるため、閉所の時間を早めるなどの対応を予定している。

メ:祭の年行事の中でこういった規制についての話が出てこないので、どうやって誰が決めているのか不思議に思っていた。コンベンション協会のウェブサイトでは通行止めのお知らせがされていたので、どうなったのかと思っていた。

事:車両は当然規制をするが、歩行者についての規制についてはこのような対応になるとのこと。規制をしても地域の方の出入りはできる。

メ:規制中であっても祭の参加者のトイレ利用は可能か。

事:利用してもらえるように対応する。

2 閉会のあいさつ

令和12年度に駅西地域に複合多機能施設をオープンする予定。こどもたちが気楽に集えるような場所になると思う。村半を利用するこどもたちにもそれぞれに居心地の良い場所を選んでもらえると良いと思う。大人が誘導するのではなく、こどもたちがそれぞれの意思で選んで使ってもらうことが一番だと思う。

以上